三徳開教110年

平成30年
2月号
No.580

法音

今月のご法話

忘れることも仏さまのおはからいです

日蓮宗
法音寺

三徳開教110年

知恩報恩

感謝と親切

今日一日、
受けた恩に感謝しましょう。
恩を忘れぬ人は信頼されます。
今日一日、
人に親切にしましょう。
人が喜び、自分もうれしい。
仏の教えは
知恩報恩の人となることです。

月刊・法音　平成三十年二月号［580］

■目次■

【信仰の指針】無著（むちゃく）　拘（こだわ）りを捨てましょう　1
【朝のこない夜はない】
忘れることも仏さまのおはからいです　山首　鈴木正修　2
■講日のご案内　17
■有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください　18
■御開山会のお知らせ　20
■特別企画・聖の教え（二十六）　22
■とこのはの記　法華経信仰で家庭を幸福に　38
■のりのね体験　いま・昔　42
■のりのとも　西に東に　転法輪・支院だより　48
■福祉に生きる　児童養護施設・駒方寮の実践　90
■日本福祉大学　今年度活躍した学生を表彰　100
■賛助員ご芳名　102
■幸せの種まき／編集後記　104
■連載まんが・ひまわり・62　マラソン大会　105
■書籍のご紹介
■法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字・信仰の指針　山首上人さま 書　表紙写真・ローバイ

掲載写真　表紙・信仰の指針・3～17頁：梅田雅臣氏撮影
2頁：加納将人氏撮影

信仰の指針

無著（むじゃく）

拘（こだわ）りを捨てましょう

日教正

ボケの花

朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

忘れることも
仏さまのおはからいです

どんなに悲しいことやつらいことでも、必ず時間が癒してくれると言います。悲しみや苦しみがいつしか「思い出」に変わっていくということです。だんだんと記憶が薄らいでいって、その角がとれて丸くなって、嫌な部分が消えて、良い思い出だけが残るということです。今回は忘れられることは良いことであるというお話です。

インドの神話に『昼夜の起源の物語』というお話があります。

昔、ヤマという、一番最初の人間とされる人がいました。このヤマは、死者としても初めての人と言われています。ヤマは初めて、天界に行った人です。

その後、ヤマに続いて多くの死者が天界にやってきますが、ヤマは最初に死者の世界に行ったので、天界の王さまになりました。ただ、後から来る人間の中には悪人もいます。悪人は別の所へ送りたいと考えたヤマは、地下に牢獄を作りました。それが地獄です。ですからヤマは別名・閻魔大王とも言われています。

ヤマには、ヤミーという双子の妹がいました。ヤミーは妹ですが、ほかに女性がいなかったので、また男性もヤマ一人でしたので、二人は結婚をしました。ところがヤマが先に死んでしまい、ヤミーはひどく悲しみました。毎日泣き暮らし、「今日ヤマが死んだ。今日ヤマが死んだ」と言って悲嘆にくれていました。それを見ていた神

々達が、どうにかしてヤミーにヤマのことを忘れさせようと考え、慈悲心から「夜」を創りました。それまでは昼しかなかったのです。

夜ができたので翌日ができ、ヤミーの言葉が変わりました。「今日ヤマが死んだ」が「昨日」になり、「一昨日」になり、「一週間前」、「一月前」、「一年前」となり、ヤミーの中で次第にヤマを失った悲しみが薄れていきました。そして思い出に変わっていったというお話です。

私達が〝忘れる。忘れられる〟ということは、諸仏善神のおはからいであるのかもしれません。

お茶の水女子大学名誉教授の外山滋比古さんという方がおられます。この方のエッセイがどれもとてもおもし

ろいのです。その中に『健忘のススメ』というエッセイがあります。

外山さんは言われます。「私は記憶力の良い人を神さまのように思うことがある。私はその全く逆で、本当に記憶力が悪く、劣等感をいだいてきた」

外山さんはずっと学校の先生をされていましたが、現役時代、学生の名前が、なかなか覚えられなくて困ったそうです。ある日、学校の近くを歩いていると通りの向こうから白い杖をついた目の不自由な青年がこちらに近づいて来て、通り過ぎようとした時、「外山先生」と挨拶をしてきました。外山さんは飛び上がるほど驚いたそうです。「どうしてわかるんだ」と青年に聞くと「先生、私は一年間先生の授業を受けました。先生の歩き方を覚えています」と微笑みながら言ったそうです。外山さん

は青年の記憶力に敬意を覚えたと言います。

当時の外山さんの同僚に、フランス語の先生がいました。その先生は戦前の学校を出られた方で、小学校の五年生から飛び級で中学校に入りました。そこでまた飛び級になり一高に進学しました。そして最優秀で東大に入ったという伝説の秀才だったそうです。

ある時、その先生に突然のお客さんが「はじめまして」と挨拶をしたところ、その先生が「初めてではありませんね。二十数年前に会っていますよ。渋谷の喫茶店でコーヒーを飲んでいたら、隣の席の人が喧嘩を始めたので、その時に私が仲裁に入りました。その片方があなたでしたね」と言ったというのです。そのお客さんはびっくりして言ったそうです。「たしかに喫茶店で私は喧嘩をし

て、止められました。あの時の方が先生でしたか」

この話を聞いた外山さんは〝こんなに記憶力の良い人がいるのか〟とふるえ上がったそうです。

外山さんは記憶力が悪いということが劣等感だったので、今でも記憶力の悪い人に出会うとうれしくなるそうです。また、すぐれた人物でもよく忘れるタイプがいると知って安心もしたそうです。

こんなお話があります。

詩人の西脇順三郎という人がいました。ノーベル文学賞の候補にもなった人です。外山さんは西脇さんとおつきあいがありました。ある日のこと、外山さんが西脇さんの家を訪れると、「今日、詩人の会があるから一緒に行かないか」と誘われました。そこでタクシーに乗り「詩人の会はどちらで行われるのですか」と尋ねると

「それがはっきりしないけど…、貧乏な詩人の会だからどうせあの店だろう」と言われ、その店に着くと、店主に「今日はそういう会はありません」と言われます。「じゃあ、あっちの店かな」と二人で次の店に向かうのですが、そこでも「そういう会はありません」と言われ、心当たりを数カ所回ったのですが、やはりありません。そこで「しかたないなぁ。じゃあ自宅に戻って一杯やろうか」となったそうです。

このエッセイの最後で外山さんは、忘れることを肯定して、記憶することは食べることに似ていると言われています。

「食べれば人間は必ず排泄をする。排泄をしなければ、腸閉塞になってしまう。頭も同じで、たくさん詰め込みすぎると一杯になってノイローゼになったりする。だから忘れることは良いことだ。

よく眠ったあとの朝の目覚めは、一日のうちでもっとも清々しく、気力にみち、ものごとがよくわかる状態である。グッド・モーニングである。夜中に、忘却がすすんで、頭脳がきれいになっている証拠である。

われわれは、忘却によって頭が良くなっている。忘れるのを恐れるのは誤りである。そういえば、かつては、よく忘れるのを健忘と言い、健忘症という言い方があった。健という文字はダテではないような気がする」

世の中には忘れなければいけないことがあります。それは「恨み・つらみ・怒り」です。これを抱いていると人間は幸せになれません。

心理カウンセラーの衛藤信之さんという方がいます。衛藤さんの所には、心の悩みを抱えた人がいっぱいやっ

て来られます。ある女性が「男性にふられた。彼のことが憎い」と言ってやってきました。話を聞いてみると、ふられたのは五年前でした。なのに「今も憎くて仕方がない」というのです。「あの日以来、腹が立って腹が立って毎日その男性に電話をかけて『あなたなんて大嫌い。怨んでやる』と言っている」とのことでした。それを聞いた衛藤さんは「とにかく、その男性のことは忘れましょう。電話をするのをやめましょう」というアドバイスをしました。

衛藤さんは言われます。

「彼女は気づいていませんが、その憎しみを通して彼女自身がずっと傷ついてきました。だから〝忘れる〟ということが大事なのです。

出来事が人を苦しめるわけではないのです。大事なのは受け取り方なのです。受け取り方を変えない自分によ

って、自分自身が傷つけられてしまうのです」

以前、渡部昇一先生のお話を紹介しました。先生の教え子が女性にふられて、この世の終わりのような顔をしてやってくると先生は必ず「よかったなあ。もっと良い人に会えるという吉兆だよ。お祝いに一杯飲みに行こう」と言ってつれ出したそうです。渡部先生の言葉によって、〝これはもっと良い相手にめぐり会える吉兆なのだ〟と暗示にかかったように、失恋した相手のことを忘れ、その後の勉強にも集中でき、新たな出会いを楽しみにできたのです。そして、決まって「先生の言われる通りでした」と次の相手をつれて来たそうです。

アフリカ・ルワンダのイマキュレー・イリバギザさんが書かれた※『生かされて。』という本があります。１９

９４年にルワンダという国でおこった大虐殺のことが書かれています。

ルワンダにはツチ族とフツ族という二つの部族がありました。少数のツチ族が支配階級で、大多数のフツ族が支配されていましたが、ある日、突然フツ族が支配階級のツチ族に蜂起して、百日間で百万人のツチ族が殺されました。「一日一万人」です。これが、爆弾を落としたり機関銃を使ったりしたのではなく、大鉈やナイフで殺したというのです。

イマキュレーさんは小さなトイレに身を隠して奇跡的に生き抜いたのです。しかし、家族はほとんど殺されました。それなのに、イマキュレーさんが自分の家族を殺した犯人と肩を組んでいる写真があります。

「私は彼に『あなたを赦します』と言いました。赦しか、彼に与えるものがないのです」と言われています。よくそんなことができるなと思われる方がいるでしょう。イマキュレーさんは言われます。

「赦さないとルワンダは先に進めないのです。このまま恨みを持ち続ければ、今度は逆のことが起こるかもしれません。だから恨みを捨てて、赦すことがすべてなのです」

イマキュレーさんは自分の体験を伝えようと、世界中を講演して回られています。アメリカのアトランタで講演した時、一人の女性が講演の後でイマキュレーさんのところに来ました。この女性は幼い時に、ユダヤ人の両親がナチスのホロコーストで殺されたため、ヒトラーやドイツ人にものすごい恨みを持っていました。

「私の一生は怒りでいっぱいでした。何年も何年も、両

親がいないために苦しみ、泣きました。でもあなたの話を聞き、どんな経験をしたのか、どのように赦すことができたのかを聞いて目が覚めました。ずっと、両親を殺した殺人者達を赦そうとしてきたのですが、今、やっとできるような気がします。そして、怒りを手放し、幸せに生きることが」

同じ講演会で、九十二才の老婦人がイマキュレーさんを抱きしめて、感情を高ぶらせて言いました。

「私は、赦すには遅すぎると考えていました。でも、あなたがしたようなことを誰かが話してくれるのを待っていたのです。決して赦すことのできないことを、赦すことさえできると知る必要がありました。今、私の心はやっとやすらかになりました」

人間にとって忘れられることはありがたいことだと思

います。悲しみや苦しみをいつまでも鮮明に覚えていなければならないとしたら、とてもつらいことです。悲しみや苦しみがだんだん和らいで、思い出に変わっていくというのは、やはり諸仏善神のおはからいであろうと思います。そして最後に『法句経』のあの有名な言葉を改めてかみしめたいと思います。

「怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である」

※『生かされて。』　著　イマキュレー・イリバギザ
スティーヴ・アーウィン
訳　堤　江実
出版社　PHP文庫

良い教えの話を聞きましょう。
全国の法音寺各支院・布教所では毎月の講日の中で
三徳の教えを聞くことができます。
是非講日にご参詣いただき、
教えを心にしみ込ませましょう。
法音寺本山は毎月7日、17日、27日が講日です。

❖今月の山首上人さまご親修日程

大阪支院	2月3日(土)	福山支院	2月10日(土)
東京支院	2月11日(日)	四日市支院	2月12日(月)
岡山支院	2月18日(日)	上野支院	2月21日(水)

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乗山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2－37－3	☎〈052〉581－2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎〈0587〉53－5436
東京支院	3日・11日・24日	東京都練馬区谷原2－6－37	☎〈03〉3904－1251
山形布教所	18日	山形市長町2－4－6	☎〈023〉681－0770
静岡支院	2日・12日・18日	磐田市城之崎4－7－3	☎〈0538〉32－6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1－26－3	☎〈0533〉86－4704
安城支院	3日・18日・28日	安城市新田町小山31－25	☎〈0566〉76－2504
明川支院	11日・18日・24日	豊田市明川町堂ノ脇1－2	ご連絡は本山寺務局へ
佐屋支院	3日・10日・18日	愛西市大井町浦田面296	☎〈0567〉32－1825
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1－7－4	☎〈0586〉72－7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎〈0568〉22－5813
岐阜支院	3日・14日・25日	岐阜市切通7－15－22	☎〈058〉245－2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎〈058〉388－2740
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎〈0584〉78－4854
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2－15－11	☎〈0575〉22－0776
平賀支院	5日・11日・15日・25日	関市市平賀213－2	☎〈0575〉23－3771
郡上八幡支院	8日・11日・22日	郡上市八幡町小野721－3	☎〈0575〉65－3933
四日市支院	3日・12日・22日	四日市市赤堀2－4－7	☎〈059〉352－3633
上野支院	1日・3日・11日・21日	伊賀市上野向島町3475	☎〈0595〉21－0127

京都支院	1日・11日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	11日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	3日・11日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所		あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234
和泉支院	10日・18日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112
神戸支院	10日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	7日・18日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	11日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	1日・10日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	10日・25日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	3日・18日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	11日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	4日・15日・18日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(0920)44-5445
筑後布教所	11日・25日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	11日・25日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	4日・7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	11日・19日・28日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	11日・25日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

御開山会

佛滅度の後に
諸佛菩薩(能く是の
經典を)受持の者を讃歎(是の經を讃美)して
稱お讃くすこと能わじ
無量劫の中に
是の
を以ての故に
力を見じたもう
妙てすとも
無量の神
(能く是の
是の經を讃美する)こと
無量劫の中に
是の
人の功德は
無邊にして窮まりある)こと
十方虛空の
邊際を得べからざる)ことな
能く是の經を持たん者は
亦多寶佛
及び諸の分身佛
如し
已に我を見
を見
又我今日
教化せる諸の菩薩を見

平成30年 御開山会

三徳開教百十年
顕修院日達上人第七回忌　御報恩法要

三徳開教百十年・顕修院日達上人第七回忌を迎えるにあたり、記念の天童音楽大法要を虔修いたします。
当日は稚児行列やバザー等を実施し、本堂では過去の貴重な映像をご覧いただく等、種々の催しを行うことが予定されております。

期日：平成30年5月13日（日）
5月20日（日）
6月3日（日）

皆さまのご参詣を心よりお待ち申し上げます。

大乗山　法音寺

特別企画

聖の教え（二十六）

耐難（堪忍）

〝艱難は人の心を玉にすと
教えしことをしみじみと思う〟

御開山上人御詠

◆経典

◇若し人此の經を說かば、如來の室に入り、如來の衣を著、而も如來の座に坐して、衆に處して畏るる所なく、廣く爲に分別し說くべし。大慈悲を室とし、柔和忍辱を衣とし、諸法の空を座とす、此れに處して爲に法を說け。若し此の經を說かん時、人あって惡口し罵り、刀杖・瓦石を加うとも、佛を念ずるが故に忍ぶべし。

妙法蓮華經・法師品　二一一頁

◇常に大衆の中に在って、我等を毀らんと欲するが故に、國王・大臣、婆羅門・居士、及び餘の比丘衆に向って、誹謗して我が惡を說いて、是れ邪見の人、外道の論議を說くと謂わん。我等佛を敬うが故に、悉く是の諸惡を忍ばん。

妙法蓮華經・勸持品　二三九頁

◇濁劫悪世の中には、多く諸の恐怖あらん。悪鬼其の身に入って、我を罵詈毀辱せん。我等佛を敬信して、當に忍辱の鎧を著るべし。是の經を說かんが爲の故に、此の諸の難事を忍ばん。

妙法蓮華經・勸持品　二三九頁

◇濁世の悪比丘は、佛の方便、隨宜所說の法を知らず。悪口して顰蹙し、數數擯出せられ、塔寺を遠離せん。是の如き等の衆悪をも、佛の告勅を念うが故に、皆當に是の事を忍ぶべし。

妙法蓮華經・勸持品　二四〇頁

◆遺文

◇末法には法華經の行者必ず出來すべし、但し大難來りなば强盛の信心彌悅びをなすべし。火に薪を加えんにさかんなる事なかるべしや。大海へ衆水流れ入る、され共大海は河の水を返す事ありや。法華大海の行者に諸河の水は大難の如く入れどもかえす事とがむる事なし。諸河の水入る事なくば大海あるべからず、大難なくば法華經の行者にはあらじ。

椎地四郎殿御書　四三三頁

◇鍛わぬ金は盛なる火に入るれば早く蕩け、冰を湯に入るるが如し。劍なんどは大火に入るれ

ども暫らく熔けず、是鍛える故なり。

四條金吾殿御返事　一五七九頁

◆安立大法尼

羼提波羅蜜の事　柔和忍辱と訳し、堪忍をすることであります。〝いかによき行為をして徳を積むとも、一度の怒りは百日の徳を焼き尽くす〟とあります。

例を申しますれば、彼の賽の河原にて小児が石を積むこと、一つ積んでは父のため、一つ積んでは母のため、一つ積んでは兄弟のためと、ようやくにして数個の石を積みたる時に、赤鬼が来って打ち壊すという譬は、衆生を小児にたとえ、わずかずつ徳を積み増して、ようやく積み重ねた時、自分の煩悩の鬼が〝喝〟と怒って、せっかく積み上げた徳を打ち壊す、という譬であります。慎しみても慎しむべく、恐れても恐るべきは、怒りの鬼であります。

然るに衆生は、怒りを以って自分の武器と心得、怒りを以って自分の権力の強きを誇り、怒りこそ人間の本質の如く思うが故に、一家不和を生じ、ひいては全世界の平和を乱すのであります。ある人は言います。〝もし怒りを止めたれば、発展力を消耗する、向上心を阻止する〟と。如何に見解の違いでありましょう。

古来怒りを以って出世したとか、怒りを以って尊敬せられた、という人があるでしょうか。織田の滅亡、明智の滅亡、さては赤穂の城主浅野の滅亡等、みな忍の一字を欠きたるためと思

いますが、如何でしょうか。また、浅野の家老大石の忍は大望をとげ、全世界に大石の堪忍袋は賞揚されて、且つ衆人の座右の銘ともなったのであります。徳川家康の家訓には、忍の徳を第一として示され、ついに三百年間の徳川家の基礎となったのであります。これらの例を以ってしても、如何に堪忍の大切なるかの事実を明らかにしておりますが、これを実行することはなかなか容易ではありません。

今平易に、堪忍する法を申し上げて見ましょう。

「我は衆の眼目となる導師なれば、大仏なりと思え。忍の徳も弁えざる者は小児と思え」。

誰しも怒る時は、必ず相手のあるもので、相手を同等の者と思えば腹も立つが、相手は取るに足らざる子どもだと思えば、腹も立ちません。もし一度怒りの起こった時は、自分も子どもになったのであります。我はつねに大仏と心得て、子どもにならぬようにしてください。

悪鬼其の身に入る　腹立ててせっかくの徳を打ち壊し、損をすることの起こるのは、自分の悪因の結果であります。我を腹立たせる彼の人は、我が悪因の罪が乗ってついに悪因を作ります。お気の毒だと思ってください。「悪鬼其の身に入り」と経文にあるのはこれであります。

一度腹立ったなら、〝百日の説法も屁一つ〟。同じ水泡に帰するのであります。故に、怒ることの起こった時は、恐ろしいと思ってください。また憎みて悪く言われても、過去に自分が

彼の如く悪口した結果だ、その時には彼に気の毒であったと、善意に解してください。怒りは小人物に多いのです。大人物は腹を立てません。今まで腹立つことの多き人も、この怒りを慎んだなれば、必ず度量の大きい人になったと人からも言われ、家庭も必ず円満となることはうけあいです。

心が狭くなると腹も立ち易いので、心を広く持って冷静にし、他人の心情を思いやってください。堪忍が破れた修養は、底のぬけたつるべで水を汲むようなもので、なんにもなりません。病の起こりも、この怒りによって来ることが多いのです。よくよく悟って堪忍してください。

始祖・御法話集　一七六頁

◆宗玄大徳

堪忍は平和な社会を作る基　私の欠点と申しますのは、〝あまりにも堅苦しいこと。取り越し苦労をすること。腹を立てること〟この三つであります。このため私の半生の幸福は蹂躙されたのであります。この悪魔は私ばかりでなく、世の中の多くの人々をも苦しめているのであります。その中でも、腹を立てることの損の大いなるは、実に筆舌に尽くし難いのであります。〝一度や二度ぐらい腹を立てても物質の損はあるまい〟などと考えるのは、大いに心得違いであります。仏説に依りますれば、〝せっかく過去において積んだ徳も、一度の怒りはよくその

大半を焼き尽くす〟とあります。この怒りの炎の徳を焼き尽くすことは、凡眼に見えない故、意にも止どめぬのですが、ついに徳を減少した結果は、病の原因となり、災難の基ともなり、物質の損失を招き、ついには一命をも失う、恐るべき事態を出現するのであります。

私はこの怒りの恐ろしきを悟り、腹を立てぬ堪忍の修養を致しました。腹を立てなければならぬことができますと、怒りの恐ろしさを思い出すと共に、〟無理を言う者は子どもだ。取るに足らぬ誠に気の毒な者だ〟と、むしろ先方を哀れんで、腹の立つ所を忍ぶのです。この世に人と生まれて最も大切なのは、徳を積むことであります。この大切な徳を積まぬのみか、それを焼き尽くすことは、この上もない損の上塗りであると悟って、私は堪忍しました。

最初が肝心です。まず一度だけ堪忍をしてください。そうすれば、次の堪忍も自然できるようになります。こうして堪忍を重ねてゆけばその徳は実に、また、非常に大きいのであります。

本会が杉山前会長のご遷化後、会の財産問題について非常な動揺を来たしました折、会を思う人々は〟法律に依って会の安泰を計っては〟と種々進言されましたが、私は〟今、冷たき法律に依って事態を処理したならば、私の三十年来にわたって修養して来た堪忍の徳もたちまち水泡に帰するのである。必ずやこれは、諸仏善神が私を試験されるのだ〟と悟りまして、相手に寛容な態度を示し、これを皆さんにもお話しして忍んで頂きました。その結果はついに、今日の喜びを来したのであります。諸仏善神よりは無量の徳を頂きました。この徳こそ悪因を消

滅する武器となり、ついに、物質上の利益も現われ、善いことの続く因ともなるのであります。いかに家庭の不和なる所も、この堪忍の二字に因って必ず平和の楽園を作ることができます。諸君に今日徳を差し上げましても、堪忍を守ってくださらぬと、徳も無くなります。せっかくの徳を使わぬのはもったいないことであります。どうかこの徳を有意義に使って、ぜひ幸福の得らるるよう、堪忍してください。

村上先生御法話集（一）　三八頁

◆御開山上人

説法第一・富樓那の精進　富樓那は説法第一と言われた人です。仏さまから教えを聞きまして十五年くらいたったある日、仏さまから、

「もう長い間聞いてひと通り解った様子だから、これからはソロソロ私に代わって教えを説いてもよろしい」ということを許されました。富樓那は、

「それでは、今までお聞かせ頂いた教えを他国へ行って説きましょう」と申しました。そして、

「第一番に西の方の縁のある国へ参りましょう」と申しますと、仏さまは、

「それは結構である。しかしながら、お前の志して行こうとする国は甚だ人々の心が険悪な国であって、恐らくお前が教えを説いても聞く者はあるまい。お前が熱心に教えを説いても誰も聞かなかったら、その時はどうするか」と問われました。富樓那は答えて、

「いや、そんなことで私は決して失望しません。誰も聞いてくれないでも、笑われなければよろしいと思いましょう」と申しました。仏さまは、
「もし大勢の人がお前の話を聞いて笑ったらどうするか」と申されますと、富樓那は、
「笑われたならば、罵られなければ幸せだと思いましょう」と答えました。さらに仏さまは、
「罵られたらどうする」と問われました。
「罵られたら、石などを打ちつけられないのを幸せと思います」と答えました。仏さまはさらに問われ、
「石を打ちつけられたらどうする」と申しますと、
「刀で切られないのを幸せと思いましょう」と答えました。すると仏さまは、
「刀で切られたらどうするか」と問われました。富樓那は、
「刀で切られたら、殺されないのは幸せだと思います」と答えました。仏さまは、
「死ぬ程の傷を受けたらどうする」と問われますと、富樓那は、
「その時は、仏の教えのために命を捧げられて幸せと思いましょう」と申しました。
そこで仏さまは初めてお喜びになりまして、
「それだけの決心があるならば行け。そうしてお前の今まで習った所を説くがよろしい」と言われて、富樓那が説法に行くのを許されたのであります。

その時に仏さまは、
「この富樓那は説法第一である。この決心で教えを説けば、教えを説く上に於て、非常に優れた者になるだろう」と言われたということです。
こういう決心をもって仏の教えを説く者を、本当の説法者というのでありましょう。
何もべらべらと達者に喋るというのではなく、教えを説く上に於て用心が堅固であって、その覚悟がしっかり据わっているということであります。

御開山上人御遺稿集　一四六頁

◆日達上人

今世は修行

「大難来りなば強盛の信心弥悦びをなすべし」（椎地四郎殿御書）

日蓮聖人は、「法華経の信仰はどんな難に出遭っても変えてはいけない。難に遭ってこそ法華経の行者と言える」と言われています。

四十歳の頃のお手紙です。何ものも恐れない気概が伺われます。

釈尊ご入滅の後、最初の千年を正法の時代といい、この時代は法華経が正しく信仰されます。次の千年を像法の時代といい、形だけの信仰が多くなります。その後を末法といって、仏の教えが忘れ去られ、オレガオレガの「我」のはびこる修羅の世界となります。そういう時代に法華経を信仰しようとする人は〝必ず多くの難に遭う〟と言います。

「大難なくば法華経の行者にはあらじ」（同書）

苦しいことに出くわしても受入れてゆかなければなりません。すべてを受入れることによって、人間は大きくなれます。

信仰は、これくらいの信念でやる必要があります。日蓮聖人は「今世は修行だ」と言われました。修行であれば楽な筈はありません。苦しいこと、困ったことの一つや二つあってあたりまえです。それを乗り越えてこそ修行であり、信仰であります。『月刊法音』第二九三号　五頁

法音寺の歴史に見る「法難」

◆宗玄大徳〈安立大法尼の時代〉

三河・白川村での修行中（明治末期）

「病気の者は私が薬を与え、前会長は其の因果を神通力で洞見して、妙法に依って因果を消滅する様精神的治療をせられたので、村人の信用は益々厚く、追々妙法を信ずる者が出来る事となりました。

之を快しとせぬのは、前に世話してくれた増延寺の住職です。

或時、柿野村と白川村と争いが出来た事がありました。早速仲裁しようと致しましたが、前会長の言われるに、『之は余程徳のある人でなければ仲裁しても応じないであろう。あなたでは少し治まるまい』と言われたが、其の言葉に頓着せず仲裁の労を取ったのですが、徒労に終

ってしまって、隣村の伊藤某氏が治めたのでありました。ところが、こんな事が端緒となって住職と区長が相談し、私共を村から追出そうという事になったのでありました。

鎌弥という人が密かに私の許に来り、『こんな騒ぎになるのも、あなた方が妙法を唱えよと人にも勧め、あなた方が強情であるからだ。妙法だけはお止めになってはどうですか』と親切に言って来て下さった事もあったが、前会長は『鎌弥さんよく聞いて下さい。此の娑婆世界に生を享けたのは〝妙法を弘める為であるぞ〟と経文には申してあります。仏教を信ずる者は皆、功徳を積まねば未来は恐ろしい三悪道に堕ちて、永劫苦しまねばならぬのです。私等はそれが恐ろしさに一生懸命妙法を唱えるのです。人の命は誠に風前の灯火よりも危きものでありますから、悟って、あなたも妙法を唱えなさる様になさい』と申されて、只変な顔をしておられるのみでありました。

或朝私が雨戸を開けると、梅の木に何万とも数知れぬ蝶が止まっていて、戸を開ける音に驚いて空に舞い上りました。又明くる日の朝も梅の木に止まっているのであります。こんな事が数日続きました。

或日、鶴さんという人が息せき切って駆け込んで来て、『あなた方を悪む人達が、〝村上や杉山は阿弥陀様の敵だ。あんな人を此の村に置いてはならぬ〟と言って、あなた方を〝追出そう。出て行かなければ何とかせねばならぬ〟と謀っておりますよ』と告げました。

実に妙法を広めんとすれば『猶多怨嫉』（法華経法師品）の金言の如し。其の難の来った事を自覚し、愈々白川村を密かに出立し、名古屋に出る事にしました。

夜もほのぼのと明くる頃、北戸越から裏道伝いに鶴さんの道案内で瀬戸の町に出る様、前会長と共に白川を後にしました」

大乗山法音寺三徳開教百年史（一）二一六頁

◆日達上人〔宗玄大徳・御開山上人の時代〕

大乗修養団解散の事　法音寺の「法難」は、昭和十八年、宗教団体法という法律により特高警察の手入れを受け、御開山上人が五十八日間も拘留されたことに始まります。

当時も、布教活動と並行して各種の社会事業を経営しておりましたが、結果として「社会事業のみに専念して布教活動は禁止する」という処分を受けたのです。各地の支部も閉鎖され、一切宗教活動ができなくなってしまった時期です。いわば宗教弾圧ですが、こうした宗教弾圧は、歴史を見てみますと随分昔からたくさんありました。なぜ、宗教は何度も何度も弾圧されたのでしょうか。

時の為政者が、宗教団体の勢力が大きくなることを怖れたことや、時として、それらの団体を国策に従わせようとしたことに原因があるようです。

一般に地上の権力を考えます時、国王とか天皇、或は大統領とか総理大臣というように、政

治の力が最高と考えます。しかし宗教を信じる人、特に法華経を信じる人たちにとってはそれ以上のものが法華経であり、仏さまの教えこそ最高のものと信じますから、為政者にしてみれば都合が悪いわけです。

日蓮聖人の鎌倉幕府にもそれは見られますし、信長・秀吉・家康の時代にも、同じことが見られるのであります。

災難は「如説修行」の証　法華経を信じ、実行する人は、一生の間にいろいろな迫害を被るということが、法華経の勧持品や常不軽菩薩品に見られます。そして、たとえいかなる迫害に遭おうとも、決して法華経を捨ててはならないと説かれています。また、迫害や災難に遭うことは、法華経を本当に「如説修行」している証であるとも説かれてあります。

日蓮聖人のご遺文を基として高山樗牛の書いた「況後録」から少し紹介いたしましょう。

「是の経の為には大覚世尊だに九横の大難に値いたまいき。不軽菩薩は杖木瓦石を被りき、笠の道生は蘇山に流され、法道三蔵は面に火印をあてられ、天台大師は南三北七の仇となり、伝教大師は六宗に憎まれ給いき。日蓮こそは、居処を逐わること二十余度、敵人の戕害に臨みしこと三たび、一度は頸の座に据えられ、二度は遠流の罪に行われて、今やこの北海の孤島に明日をも知らぬ命とはなりたるぞ」

是の経とは法華経であります。法華経のためにはお釈迦さまでさえ、九つもの大きな難を受けられましたし、天台大師も伝教大師もその例外ではありませんでした。日蓮聖人の受けられました迫害については皆さんよくご存知と思いますが、そのような迫害の中にあっても日蓮聖人は、

「あら嬉しや、喜ばしや」（同書）と述べておられます。それは、

「古賢先聖だに読み給わざりし妙法の極意をば、今ぞ日蓮こそは読みたむなれ。勧持品二十行の偈は日蓮だに、此の国此の世に生まれ、別して此の島に流されずば、世尊一代の大妄語となり果てなむず」（同書）という、法華経に対する信念であります。

「読む」とは、口に出して法華経を読むことではありません。法華経に説かれてあることを実行し、体験することです。〝説の如く実行しているからこそ、迫害に遭う〟　これは、まぎれもなく法華経の行者であることの立証であります。そのことを喜ばれているのであります。

『月刊法音』第一一六号　五頁

法華経行者の喜び　はっきり言って、宗教活動を禁止されたということは、団体として解散させられたのと同じことなのです。その上にまだ、手入れを受けて暫くの間は特高がお寺の周りを見張っておりまして、出入りする人々をすべて取調べておりました。当時特高に目をつけら

れるということは、一般では大変なことだったと思います。にもかかわらず、立派に立ち直ってきたということは、本当に強盛な信仰と申しましょうか、法華経に対する信念を、御開山上人をはじめ幹部の人たちはもちろんですが、一般の信者さんも固く持ち続けられたからだと思うのです。そういう人々の支えがあったからこそ、今日があるのであります。

そこには、法華経に説かれてあること、そして幾度かの迫害にもめげず、むしろ、法華経の行者である査証を与えられたという喜び、そして、自らの罪障が消滅できるという信念で立ち向かわれた日蓮聖人のみ教えが、しっかり植えつけられていたと申せましょう。

「法難」に学ぶこと

「法難」は、私共の今の生活とは少しかけ離れてしまった話のように思われるかも知れませんが、こうしたことは、一人一人の人生に於ても同じことが言えるのです。

本当に法華経を実行する人は、いろいろな災難・迫害を受けると説かれてあることを考えます時、災難や迫害が身に降り懸かってきたということは、本当に法華経を実践している証拠と言えるのです。そしてまた、自分の持っている罪障が表に現われてきたということでもあるのです。表に現われるということは、消えてゆくことでもあるのです。言葉を換えて言えば、消えるために現われてくるわけです。

どんな苦しみでも悩みでも、病気でもそうです。決して、人が持ってきたり、突然関係もな

く現われるものではありません。みな自分が作ったものであり、自分に具わっている罪障の結果、そうなるわけです。そうした自覚に立ち、それを喜びに変えてゆかれるような、大きく広い心を持ってゆくことが大切です。

家庭に於ても社会に於ても同じです。「法難」のように、命を取られるような迫害はないかも知れません。しかし、思いもかけないような、降って湧いたような災難が、突然起こるようなことはありましょう。そうした時、本当に芯になる法華経の信仰が心にしっかりとあれば、法音寺の歴史のように、乗り越え、より以上に発展させてゆくことができると思うのです。その時、夫婦・親子、それぞれ勝手に、〝オレガオレガ〟というようなことをしていたのでは、もうおしまいです。〝別れましょう、解散しましょう〟ということになってしまうのであります。

『月刊法音』第一一六号　一〇頁

『聖の教え』は、御開山上人が昭和33年8月に同名の著書（現・仏教聖語の解説）を発行されていますが、同題を使用させていただきました。

経典〔訓訳妙法蓮華経並開結＝平楽寺書店版収録の法華三部経〕及び遺文〔昭和新修日蓮聖人遺文全集＝平楽寺書店版収録の遺文〕と、当山先師の教化資料〔当山発行の書籍〕を典拠とし、現代人の信仰の培養に資する妙文を選出して並記・編集したものです。

本稿中、内容・文言にその時代及び、教学上特有の記述、さらに、現代においては不適切と思われる文言も散見されますが、時代背景を鑑みいずれも原文のまま転載しました。尚、経典・遺文とも、日々拝読する経本・御妙判等と読み方において異なる箇所もありますが、いずれも出典書を基としています。読者諸賢のご賢察を願うものであります。

とこのはの記

三徳開教百十年　特別企画

安立大法尼の教え①

法華経信仰で家庭を幸福に

人は家庭をもって暮らすことになります。家庭で平和に、楽しく暮らすことは、「人と生まれて最大の幸福」です。これに反し、不愉快で陰惨な家庭で一生を終わるのは、「人生の不幸」です。

では、どうすれば平和な家庭を作ることができるので

しょうか。この問題は、物質でも科学でも解決にはつながりません。宗教によって「心の修養」をしなければならないのです。

ところが、宗教にもいろいろあります。教えの優劣も定めがたく、迷ってしまいますが、私達日本人に最もよく合うのは仏教です。さらに、数ある経典の中で最も完全な修養のお手本は、法華経です。なぜなら、法華経の実行者は、「共存共栄」という信念をもって、お互いに仲良く助け合い、みんなが幸福となるようなことをするからです。

何事も、人生で起こることは、「因果」によるものです。善い行いをすれば必ず善い報いがあり、悪い種をまけば、いつかは必ず、自分から悪の実を採り入れなければならないのです。

まず心を広くもち、〝無理を言う人は子どもだ〟と思うことです。それが「堪忍」です。むしろ他人の迷惑を考えない人に対して〝気の毒だ。かわいそうだ。どうにかして、心の広い、決して怒らない人にしてあげたい〟という「慈悲」の心をもちましょう。

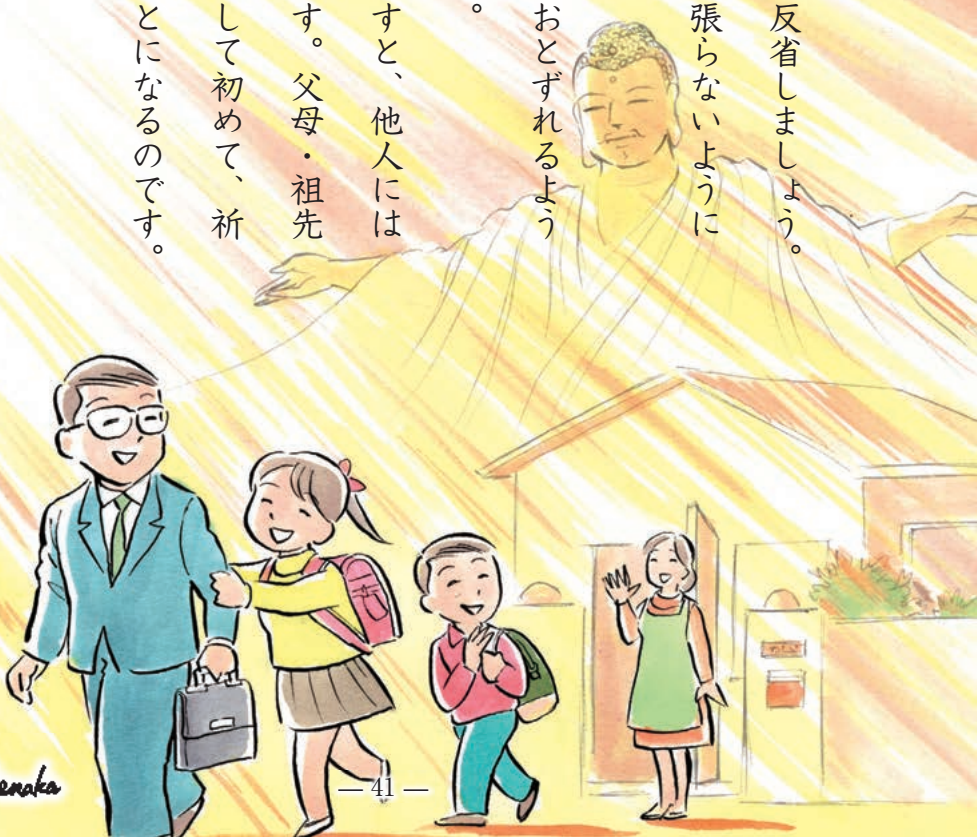
次に、他人の過失を見ても責めず、〝自分に足りない

ことがなかったかどうか〟を振り返り、反省しましょう。

また、今あるものに感謝し、決して欲張らないようにしましょう。

少しでも多く功徳を積み、善い果報がおとずれるような種まきをすることを喜びとしましょう。

すべてにおいて、このように実行しますと、他人には必ず愛され、敬われるようになってきます。父母・祖先に対しても孝行となります。そのようにして初めて、祈らなくても諸仏善神にご守護いただくことになるのです。



のりのね体験　いま・昔

祈らずともご守護を受けたこと

大阪・林　千鶴子（昭和9年7月・出世の栞43号）

私はまだ修養の浅い者でございますが、み仏の道にお導きしていただきましてからは何事も善意に解釈するようになりましたので、クシャクシャと物にこだわっていないで、早く悟らせていただけるようになり、不思議なくらい心地が良くなりました。このように喜びの日を送ることができますのは、ひとえに妙法のお陰と感謝している次第でございます。

つい先日の出来事でございます。警察署から呼出し状がまいりましたので、何事かと心配してまいりますと、警察署で申されるに「あなたの家へ強盗が入ろうとして『三回程入ろうと考えたが、入ることができない不思議な家だった』と言っていますよ。あなたの家へ入ることができないので、近所の家に入って金品を盗り、その強盗が警察に捕まったのです。あなたの家の様子をうかがい、『ガラス切りや良く切れる刃物を用意していたが、どうしても目的を果たすことができなかった』と言っています」とのお話でありました。警察署で聞いて初めて驚いたような次第でありますが、私のような修養の乏しい者でも、妙法を信じさせていただいたお陰で大難をのがれさせていただきましたことを、今さらながらありがたいことであったと喜びました。

「小間使い」の試練

M・K生（樹徳9号　昭和11年9月）

私にはSという四つ年下の同僚があります。毎日同じ机で並んで仕事をしている人です。彼は今年の八月頃足に腫物ができたため、歩行が困難でしたので、私はS君に同情して彼の用足し（事務所へ行ったり、監督に用事を聞き入ったりすること）を一切引き受けてやっていました。

「すまんなK君、君にばかり厄介をかけて」とS君は時々こうした感謝の言葉をもらしました。そのたびに私は修養のありがたさを感じていました。

こうして十日程でS君の腫物は全治し、彼は自由に活動できる身となったけれど、私に用事を言いつけることは一向に止まなかったのです。それはまるで小間使いか給仕のようで、私はS君の命令の下に働いたのです。

四つ年下の友人の小間使いのように働く。それは少し考えると馬鹿馬鹿しいことです。けれどここに感謝すべきことは、私が常に修養の話を聞いていることです。しかし、修養の程度の低い私は、こんな小さな堪忍をするのにさえ非常に苦心しなければなりませんでした。S君は私に徳を積ませてくれる恩人であると思って毎日やりましたが、どうも「四つ年下」ということが頭にあるので、とかく破れがちな堪忍でした。

これではいけないと思っていろいろ考え直した挙句、〝年は四つ下だけれど所持している徳はS君の方がずっと上だ〟と気づきました。〝私のような薄徳な者は徳のあるS君に使われるのが当然なのだ〟と思い直しますと、今までよりは堪忍が楽にできるようになりました。こうして堪忍すること約

一カ月。すると突然私は都合によって仕事の場所を変わることになりました。のみならず、給料がずっと昇りました。私は今まで非常に安い給料だったので、まずこの問題を解決しなければならぬと修養に努力していたのですが、今度の昇給によってその憂いがなくなりました。

学校へ入学するには試験があります。就職するにも試験があります。私達が幸福の境地へ達するにもやはり試験があるものです。S君が私に対して無理を言ったのは確かに試験だったのです。幸いにして私はこの試験にパスして、昇給という地点に至ったのであります。なお今後もいろいろな試験があると思いますが、どんなむずかしい問題が出ても、また、いかなる苦境に陥っても、それは幸福への第一歩であるから大いに三徳の実行に努力して、この試験にパスするよう努力したいものだと思います。

目が見えない因縁

豊川支院　若松　清一（平成29年・信教師会報第48号）

20代の前半、ご法座で小森啓学上人に「清ちゃんは、目が見えなくなる因縁があるよ」と教化され一瞬言葉を失いました。すごいショックで帰り道は涙が止まりませんでした。家に帰って両親に話し、目の悪かったご先祖さまがおられたかと聞いて調べてみますと、遠い親戚で、晩年になってから目が不自由になった男の人がいたことがわかりました。翌日、大高妙好法尼にお話ししますと「これからはなぁ、永代経を上げて追善供養をしてなぁ、大事な目に沢山のお徳をつけることで悪因消滅をすることだよ」と教化してくださいました。

50代に入り、眼鏡が必要になってきましたので眼医者さんで検査してもらうと「若松さん、病名は角膜変性症です。この病は毎年少しずつ角膜の表面が濁ってきて視力が低下します。当面の治療法としては目薬で進行を抑え、やがては角膜の移植手術をして完治させることが必要です」と言われ、以来、眼医者への通院が始まりました。〝お上人が教えてくださったことは、このことだったのだ〟と、因果の二法を体感して身震いしました。

70代になり平成28年4月、本山講日に参詣し、山首上人さまに「目の病気を治すために角膜の移植手術を受けてもよろしいでしょうか」とお伺いしました。山首上人さまは、満面の笑みでやさしく「若松さん、提供される方は〝誰かのお役に立てれば〟との善意から献眼されるのですから素直にお受けすれば良いのですよ」とおっしゃいますので、安心して手術をしていただこうと決心しました。

翌月、名古屋の病院で10種類以上の検査を受けて、先生より詳細な報告を受けました。先生は開口一番「若松さん、角膜の病気は生まれた時から持っていました。すぐ移植する申し込みをしますか」と問われました。「生まれた時から」との言葉が心に沁みて、これからの人生を考えて〝移植手術に託そう〟と思い、返事をしました。心の中では、〝広宣流布のお手伝いができますように。そして、三徳の実行と納経写経、米題目行に精進します〟とお誓いしました。

平成29年1月20日、豊川支院で山首上人さまの特別加持を受けました。「目の手術日が近づいてきました」とご報告しますと「若松さん、手術していただくと目が良く見えるようになるので楽しみですね」とお言葉をいただき、プラス思考の大切さに気がつきました。

数日後、病院から「手術は1月27日を予定しますが、ご都合はよろしいでしょうか」と電話が入り

ました。本山講日と同じ日になったことがうれしくて「お願いします」と即答しました。その後、三宅善祐上人にお会いして、左目提供者の永代供養、担当医師の先祖供養などのお徳を積みました。

当日は、本山講日にご出仕される三宅上人ご夫妻の御厚情で、お車に同乗させていただき、名古屋の病院に向かいました。途中、お上人からの温かいお話を耳にして、心は素直になりました。

入院手続きを済ませると、妻が目にお神通を掛けてくれました。その時、「若松さん、手術着に着替えてお越しください」と放送が入り、「三先師、日達上人、山首上人さま、南無妙法蓮華経」とお唱えさせていただきました。

手術は、まずレーザー室で頭を固定し、目の周りにレーザーで印が付けられました。先生が「若松さん今から始めます」と言われましたので、「よろしく」と返事をしました。右目は覆われているので何も見えず、左目で天井のライトを眺めていましたが、10分を過ぎた頃からは暗闇になり、心の中でお題目を唱え続けました。

右手には点滴、左手は血圧測定がされていて全く身動きできません。1時間半程した頃「若松さん、きれいになりましたよ」とやさしい先生の声が聞こえ、ほっとしました。「先生、本当にありがとうございました」と心からお礼申し上げました。

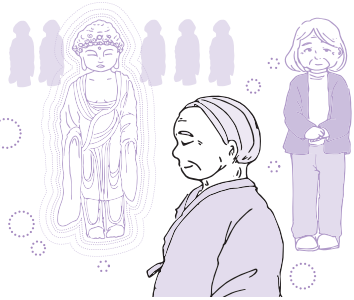
ベッドから降り、ゆっくり歩いて手術室を出ますと、妻が駆け寄ってきて、目に涙を浮かべ「お父さん、ご苦労さまでした」と声を掛けてくれました。「私ね、手術の一部始終をモニターで観ていたのよ。汚れていた角膜が剥がされると、その奥は青く透んできれいだった。移植してからも、瞳が澄んでいて感動で涙、涙だったよ」と話してくれました。その言葉にうれしくて目は潤み、三先師、日

達上人、山首上人さまに心の底から感謝いたしました。

その夜、相部屋の50代の男性が網膜剥離の手術を終えて、ベッドでうつ伏せになり休んでいましたが「腰が痛い」と叫んでいたので、背中をさすり30分間位の神通掛けをさせていただきました。すると男性は「あれぇ、不思議なほど腰が楽になったよ」と痛さは軽減したようでした。それから、法音寺のお話や因縁因果の話をさせていただくと、その男性は子どもの頃に亡くなられた弟さんの追善供養を出されました。うれしくて、神通掛けも4日間続けさせていただき、心の絆も一層深まりました。

28日の夜中12時「人生初の経験をさせていただけたなぁ」と振り返っていますと、突然目の前に60歳位の長い髪の女性が出現しました。「あっ、この方とご縁がいただけたんだ」と直感して「これからの人生をよろしくお願いいたします」と声を掛けました。その女性は二度三度、私の方を眺めてから、すぅっと左目に入りました。感動して「世の中のお役に立てるよう精進します」とお約束しました。次いで、右側にチラチラと見えていた六体の金色の仏像が一体ずつ出現され、頷かれては後方に消えました。神々しさに興奮して見入り、そっと目を開けますと12時15分…。15分間の仏さまの世界でした。

私達は「ご先祖さまを木に譬えますと根であり幹であり、子や孫は枝や葉です」と教えていただいています。子孫やご縁のある方々の幸せのために、善根功徳を積ませていただくことが使命です。広宣流布を楽しんで、「法道楽」として日々歩める人生をお誓いできた6日間の楽しい入院生活でした。



福祉に生きる

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。
鈴木修学先生が築き上げた福祉の新たな未来を切り開くために…

社会福祉法人 昭徳会
児童養護施設 駒方寮の実践

修学先生の教えを守り子ども達に接します

駒方寮　児童指導員　荒川　りの

日本福祉大学の創立者である鈴木修学先生の功績は、昭徳会の新人研修の際にも話を聞かせていただきました。その上で本書を読み、改めて修学先生の歩んできた道がいかに困難なもので、どのような志を持って乗り越えてきたのかを学ぶことができました。

私は、困っている人、誰かの助けを必要としている人の役に立ちたいと思い、福祉の道に進みました。本書の中では「ほめて育てる」という部分が印象に残りました。子ども達が何か悪いことをした時に怒るのではなく、良いところを見つけてまずはほめる

こと、それから良くないところを伝え教えるとありました。私もほめることは大切であると考えたため、子ども達と関わる中でほめることを意識しようと心に決めていました。初めの頃は良いところを見つけようと意識し、実際に言葉にして子ども達に伝えることができていました。しかし、2カ月程たった今では子ども達に注意することの方が多くなり、ほめることが少なくなっていることに気づきました。子ども達が何か悪いことをしていると、直してほしいという想いが先に来てしまい、言葉に出てしまいます。また、自分自身に気持ちの面で余裕がないことも原因であると感じています。

施設の子ども達は心に傷をかかえていることが多く、大人から怒られると反抗的な態度になり、自分をわかってもらえないという思いになります。自分が誰かに受け入れてもらえたということがないため、大人を信用することができません。また上手に甘えることもできません。自分の気持ちを素直に出すことができず、さらに反抗的になり、中には自分自身を傷つけてしまう子どももいます。私自身、先輩職員のように上手に子ども達に対して怒ることができません。怒ることが苦手であるため、ほめることを意識していきたいです。子どもが本当に良くないことをした時には伝えないといけないので、子どもの話を聞き、だめなことはきちんと伝えるとともに良いところを見つけ、ほめるようにしていきたいです。私の現在の目標は、毎日一つ子どもの良いところを見つけてほめることです。子ども達が毎日安心して楽しく生活できるように、子どもが困っているなと感じたら話を聞き、一緒に考えて子どもに寄り添っていきたいです。

まだまだ子どもに向き合うことはむずかしいと思うことの方が多いですが、修学先生の教えが子ども達に伝わるくらい、私自身が意識して子ども達と関わりたいと思います。また、子ども達に寄り添い、子ども達のことを受け入れて、子ども達にとって安心できるような存在になりたいです。そのためには修学先生の教えを守り、いつも笑顔に自信を持って

子ども達に接し、笑顔が広がっていくようにしたいです。

「慈悲・至誠・堪忍」を心掛けます

駒方寮　児童指導員　田中　朱奈

『日本の福祉を築いたお坊さん』を読み、福祉のあり方について考えました。鈴木修学先生がご活躍されていた時代は戦前と戦後の食糧・資金調達が厳しい時代です。しかし、今の時代は簡単に物が手に入り、国からの資金の補助もあります。このように昔とは違う今の世の中ですが、法華経の教えでもある「慈悲・至誠・堪忍」という言葉は今の世の中にも必要だと考えます。

私は今年度から昭徳会の児童養護施設職員の一員となりました。修学先生の支援の中に「叱る前にほめ、ほめた後で教える」という言葉がありました。これは「堪忍」につながるものです。児童養護施設の子どもは自尊心が低いと言われており、頭ごなしに叱られていてはさらに心の傷も深くなっていくことでしょう。しかし現代は義務教育であり、勉強が嫌いでも勉強をしなければならなかったり、携帯電話などの娯楽が増えたりと、大人が叱らなければならない状況がたくさんあるように思います。そうした時代だからこそ、堪忍してほめた後で教えることが大切だと考えました。

また、「慈悲」については、「人々の悲しみを自分のこととして受け止め、自らの喜びを他人に分け与えるやさしさの心」とあります。修学先生は杉山先生の教えのもと、ハンセン病の患者さん、そして子ども達の悲しみや喜びを自分のことのように感じていらっしゃいました。これはとてもむずかしいことです。特に自らの大切な物を売り、他人に分け与えるなど、大変なことのように思います。現代の福祉においては職員のお金から資金繰りをすることはありませんが、この「慈悲」の精神を持っているからこそ福祉の世界へ導かれたのだと思いました。

最後に「至誠」についてですが、「慈悲」の精神

を行動に移すことが「至誠」であるように感じます。「至誠」とは、「世のため人のために自らを役立て、やさしさをたゆみなく持ち続けること」とあります。一時の優しさではなく慈悲の心を持ち続けることで、修学先生は何か自分にできることはないかと考え、自分を役立てることができたのだと考えます。それは「日本福祉大学」を創設することにもつながったのではないでしょうか。

「慈悲・至誠・堪忍」は自分の今後の進むべき道を示してくださったように思います。「昭徳会」へ就職させていただくからには、法華経の精神で利用者さんと関わり、そして職員同士の連携をしっかりと行います。まだまだ福祉の専門職の出発点ですが、「慈悲」を思い、「至誠」の心で行動し、時には「堪忍」できるような職員をめざしたいです。

子ども達の手本となれるように取り組みます

駒方寮　児童指導員　奥村　悠加

この本を読み、鈴木修学先生が築き上げてきた福祉に携われることにうれしさを感じると同時に、この先どのような職員になっていきたいのか、どのように子ども達と日々関わっていくべきかを考える良い機会になった。

修学先生の言葉で印象に残ったものがいくつかある。一つ目は「五つほめて一つ教える」という言葉だ。子ども達と関わりながら支援していく中で、常に持っておくべき心構えであると思う。子ども達の良いところを見つけ、どんなに小さなことでもそれを言葉にして伝えることは、子ども達の自己肯定感の向上や自信につながる。長い時間を過ごす程、人の良くない部分や嫌な部分が見えてきて、そこばかりを指摘してしまうが、毎日一つは必ず良いところを見つけてほめることを心掛け、それが子どもの成長に良い影響をもたらせばと思う。

二つ目は「如我等無異」という言葉である。この言葉から、昭徳会の基本理念の意味がより深く理解できた。〝皆同じく尊い命を有している〟からこそ「障害を持っているから」「施設の子だから」などは関係なく、ありのままを受け入れることの大切さを感じた。職員として「子ども達を受け入れ、理解すること」「一人ひとりに合った支援を行い、子ども達が幸福を感じること」が大切なことである。

三つ目は三徳「慈悲・至誠・堪忍」である。腹を立てず、恨みを捨て去り、理不尽な出来事からも逃げ出さず、他人を許す広い心を意味する「堪忍」が今の私に特に足りないものだと感じた。広い心を持つことで心に余裕ができ、他人のことを認めたり、ほめたりすることができると私は考える。ゆえに、子ども達との関わりの中ではもちろん、職員同士の関わりでも必要なことであると思う。〝今日も一日堪忍してみよう〟という思いで現場に入るようにしたい。

四つ目は「まずは家庭と家族を大切にしてほしい」という言葉である。まず身近にいる人に対し、「慈悲・至誠・堪忍」の心を持って行動することが大切だと感じた。感謝や謝罪の言葉を伝えることも同じだと私は考えている。家族や友人など近くにいる人ほどあたりまえだと思わず「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え、悪いと思えば「ごめんなさい」と素直に伝えることができる人間になりたいと思う。子ども達に対しても、その姿を見せることで伝えていきたいと思う。

修学先生のように教えを守り、人のために自分自身を犠牲にし、思いを貫き通す生き方に感銘を受けた。口で言うことや、途中であきらめることは簡単なことだが、支援していく側の人間であるからこそ、手本となるような姿を子ども達に見せていかなければならない。そのために常に言動に責任を持って自分自身を見直すことも心掛けたい。

この本で感じたさまざまなことを忘れず、現場で活かしたいと思う。

「ほめて育てる」の実践を続けます

駒方寮　児童指導員　佐原　由梨

鈴木修学先生の功績は昭徳会の新人研修の際にも話を聞かせていただいたが、本書を繰り返し読む中で特に印象に残ったのは「ほめて育てる」指導法に関する逸話だ。修学先生は「どんな子どもでもほめてやると必ず良い子になる。だから良かったことだけ探し、良いことがなければ仕事を与え、そのことをほめてやるとよい」と話している。

駒方寮で児童指導員として働き始めた当初は、修学先生のように子どもの良いところを見つけ、ほめようと努力していたし、実践できていたと思う。しかし、子ども達と日々生活していく中で、子ども達の悪いところやできていないことばかりに目が行き、叱ってしまうことの方が多くなってしまった。「子ども達が良い行動をできるように」「将来自立してもきちんとやっていけるように」…そう思えば思う程、注意や叱責が多くなり、子ども達が萎縮してしまうこともある。しかし、修学先生はこう述べている。

「一つのことを教えようと思ったら、五つぐらいほめてあげることが必要です。五つほめて一つ教える、この心構えを覚えておいてください。子どもをほめてやるためには、子どもの一日を温かく、そしてしっかりと見守る姿勢を身につけなければなりません」

この言葉を思い出し、自分はほめることもせず、子ども達に多くのことを教えようとしていることに気がついた。だから何回同じ注意をしても子ども達には届かず、また同じことを注意することになるのではないかと思った。それに気づいた後、この「ほめて育てる」をもう一度意識して実践すると、こんなことがあった。いつも「字をきれいに書きなさい」と注意していた子に「今日はとても上手に字が書けたね」とほめると、次の日こちらが驚くくらいきれいな字を書いてきたのである。「ほめると良い子になる」ということを実感した瞬間だった。

理想には到底追いついてはいないが、自分が「ほ

めて育てる」という意識を持ち続け、実践していくことが大切だと思う。そしてそのためには、数多くの子ども達の中で、子ども一人ひとりの生活をしっかり見守る必要がある。大変なことではあるが、それが私達に課せられた使命であり、修学先生の遺志でもある。それをしっかり全うし、少しでも修学先生のような立派な人間、福祉人になれるよう、これからも精進していきたい。

子ども達をたくさんほめてあげたい

駒方寮　保育士　柵山　江里

この本を読み、私は人のためにどれだけのことができるのかについて考えました。当時は不治の病で感染力が強いと言われていたハンセン病患者さんに対して、差別などはしないと思いますが、一緒に寝食をともにしたり、包帯を変えたりすることに対しては抵抗があると思います。同じ人間であり、平等であるという心を持って、差別なく、患者さんを幸福にするために尽力された修学先生やみつさんは、すばらしい人であると思いました。

罪を犯した少年達の更生では、修学先生が必ず見本を見せ、一緒に農作業を行っていました。一緒に大変な作業を行うことで信頼関係を築くことができ、少年達も心を開くことができたのではないかと考えます。また、少年達が作ったお米が喜ばれ、自分達の頑張りを他者に認められる経験ができたことも、自信を取り戻し、社会に復帰することができる要因であったと考えました。

人からほめられたり認められたりすることは、とてもうれしいことであると思います。頑張っていることを認められ、感謝されることは、自分自身を肯定的にとらえることにつながり、自信も持てるようになることだと考えます。修学先生は、子ども達をたくさんほめ、子ども達を大切に大事にしていらっしゃったのではないかと思いました。子ども達と関わりながら、子ども達の良いところを見つけ、たくさんほめていらっしゃったことがわかりました。

また、子ども達だけではなく、職員にも修学先生の考えを伝え、どのように子ども達と接するべきかを教え、自らも第一線で実践していたことを知りました。子どもを叱るのではなく、ほめて育てることや、「五つほめて一つ教える」という修学先生の考えに、とても納得がいきました。ほめて育てることを忘れずに、子ども達と関わっていきたいと考えます。

人のために尽くすことは福祉の根底であると考えます。自分が人のためにどれだけのことができるのか、この本を読んで考えました。人の幸福を願う心と、どうすれば人は幸福になるのかを考える力を持ち、仕事に励みたいと思います。子ども達の良いところや頑張っているところをたくさん見つけ、たくさんほめたいと思います。思いやりの心を持ち、子どもの気持ちを尊重し、子ども一人ひとりを大切にする支援をしていきたいと考えます。

『日本の福祉を築いたお坊さん』日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・168頁・800円(税別)　本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

児童養護施設　駒方寮

●愛知県名古屋市昭和区花見通2－4－1

●入所定員45名

●職員　正職員31名、パート職員等5名

●児童指導員〈児童福祉分野〉＝児童福祉施設において、児童の生活指導を行う。次の任用資格が必要。①地方厚生局長の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設を卒業した者。②大学の学部で、心理学、教育学又は社会学を修め、学士と称することを得た者。③小学校、中学校、高等学校の教諭の資格を有する者。④高等学校を卒業した者であって、2年以上児童福祉事業に従事した者。⑤3年以上児童福祉事業に従事した者であって厚生労働大臣または都道府県知事が適当と認定した者。具体的な進路としては、4年制の福祉系大学を卒業するか、大学で、心理学・教育学・社会学を専攻し、児童指導員任用資格を取得することが一般的。

●保育士〈児童福祉分野〉＝児童福祉施設において児童の保育を行う者。保育士の資格が必要。

※本稿は平成29年7月にいただきました。（掲載順不同）

駒方寮のクリスマス

写真提供・昭徳会

児童養護施設・駒方寮

～各ユニットからの出し物披露で笑いの絶えないクリスマス～

平成22年に新しくなった駒方寮は、２階が幼児フロア、３階が学童フロアになっており、それぞれ男女別々の４つのユニットに分かれて生活しています。普段は別々の空間で過ごしていますので、クリスマスは全員が集まって食事をしたり、出し物をしたりする特別な機会となっています。

今年のクリスマス会は12月22日に行われました。食事の席は幼児から高校生までの縦割りにしています。普段は喧嘩が絶えませんが、こういった場面では小さい子に優しく接することができる子ども達が多く、面倒を見る学童部の子ども達の姿に職員の心は温まります。各ユニットから一品ずつ料理を作って持ち寄るのも恒例となっており、今年も子ども達と一緒に現場職員が腕を振るいました。また、クリスマスに欠かせないシャンメリー（シャンパン風のノンアルコール炭酸飲料）やケー

キは、個人や企業から寄贈されたものです。

クリスマスは多くの方々に子ども達の生活が支えられていることを実感する時期でもあります。子ども達も年齢が低い間はなかなかわかりませんが、間もなく自立を迎える高校生ともなると、このようなご支援が本当にありがたいものであったと話しており、旅立ちまで後わずかであることを感じているようです。

食事を終えると、各ユニットから出し物を披露します。年々完成度が高くなり、今年は紅白歌合戦に見立てて進行されました。流行りの韓流アイドルのダンスを披露したり、芸人のモノマネをしたり、職員も交じって披露する出し物は大変盛り上がりました。普段は素っ気ない態度をとっている高校生も、思いっきり気持ちを乗せて披露し、笑いを誘います。

ここ最近は、児童相談所職員の皆さまも出し物を披露しに来てくださっています。児童相談所の方々は、月二回小学生の子ども達と遊ぶ〝グループワーク〟を開催してくださっており、そのご縁でクリスマス会にご招待しているのですが、お忙しいので食事会には間に合わず、出し物の時間からの参加となることがほとんどです。児童相談所の方々の体を張っての出し物に子ども達は大変喜んでいます。紅白歌合戦に見立てたものの審査員はたてておらず、勝敗はつきませんでしたが、子ども達はお互いの出し物を楽しみ、自身の出来にも満足そうにしていました。

毎年、このように笑いの絶えないクリスマス、みんなで楽しいクリスマス会をこれからも作っていきたいと思っています。

児童養護施設・駒方寮
グループリーダー（保育士）　**中村純子**

今年度活躍した学生を表彰

～日本福祉大学

写真提供・日本福祉大学

本学では毎年、日本福祉大学後援会（以下後援会）の支援を得て、スポーツや学術文化・地域貢献活動など、課外活動において優れた成果をあげた学生やサークル・団体に対し、表彰を行っています。

今年度は12月9日（土）に、美浜キャンパス・文化ホールにおいて、理事長、学長、後援会会長をはじめとする後援会役員の皆さまのご出席のもと、約４００名の学生が出席して表彰式が行われました。

第１部では、後援会からの学生活動支援助成事業贈呈式が執り行われました。学生の保護者と企業・法人会員による後援会からは、毎年、サークル強化育成事業や活躍した学生への奨励援助に助成金をいただいており、物心両面の支援を受けています。

第２部「今年度活躍した学生を励ます集い」では、個人17名と９サークル・団体に対し、表彰が行われました。

個人では、アーチェリーで全日本選手権大会に出場した学生や、車椅子バスケットボールで世界選手権大会に出場した学生のほか、障がい者水泳、トライアスロン、ボッチャ、フライングディスクなどの競技で優秀な成績を収めた学生に学長表彰が授与されました。

団体では、全日本選手権大会のベスト８の成績を収めた男子ソフトボール部や男女ともに次年度最上位リーグでの出場が決まったＩ部バドミントン部など、６つのスポーツサークルが表彰されました。

また、スポーツ分野以外でも、学術文化活動として合奏研究会吹奏楽団が、地域貢献活動としてⅠ部聴覚障害者問題研究会「加絵手」などの団体・個人が表彰されました。

最後に、本学特別強化指定部Ａ６サークル（※）の、２０１７年度の活動報告と次年度に向けた抱負発表を、各サークルの主将が壇上で行いました。各主将は緊張しながらも凛とした表情で報告を行い、会場からは大きな拍手でエールが送られました。

本学出身のスポーツ選手としては、中日ドラゴンズの浅尾拓也選手やパラリンピックに出場した選手が有名ですが、近年、社会人野球や社会人アメリカンフットボールで活躍する卒業生も誕生しています。今回表彰を受けた個人学生の内４名は、２０２０年東京オリンピック・パラリンピックのあいち強化育成指定選手にも選ばれており、今後の活躍が一層期待されています。

本学では、皆さまご承知のとおり２０１７年度より「スポーツを３６０度科学する」というコンセプトの下、あらゆる方面からスポーツを学ぶスポーツ科学部が開設されました。

また、スポーツと文化芸術活動に対する支援を強化するために、事務局にスポーツ・文化振興課が設置されました。

課外活動においても、本学ブランド力や学生募集力の向上に資するスポーツ・文化活動を推進し、国際大会出場・全国大会入賞等を前提とした特別強化指定部を立ち上げました。

「スポーツ科学部」「スポーツ・文化振興課」「特別強化指定部へのサポート制度の充実」の三つが連携をして、２０２０東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みを一層強化していきます。

そして、高い目標に向かって成果を求めていくことはもちろんのことですが、何よりも忘れてはならないことは、スポーツ・文化活動の振興により、本学の建学の精神であり伝統でもある、ふくしマインドとふくし文化の醸成に一層寄与していくことだと考えています。

皆さま、引き続きのご声援・ご支援どうぞよろしくお願いいたします。

※日本福祉大学特別強化指定部

●Ａ（国際大会出場・全国大会上位レベル目標）６部
サッカー部・硬式野球部・女子ソフトボール部
男子ソフトボール部・ラグビーフットボール部
女子バスケットボール部

●Ｂ（全国大会上位入賞目標）14部
アーチェリー部・アメリカンフットボール部
硬式テニス部・卓球部・男子バスケットボール部
バトミントン部・弓道部・準硬式野球部
女子ラクロス部・男子ラクロス部・水泳部
陸上競技部・ゴルフ部・合奏研究会吹奏楽団

スポーツ・文化振興課　竹内　裕賀

幸せの種まき＝一人が一人を

今日一日、自分を磨き、良い習慣をつける日にしましょう。もし悪い癖があれば、今日限り除きましょう。

一日一日は、次の時代の種となります。心掛けの違いは一生の間に大きな隔たりをつくるでしょう。

大乗山　法音寺

編集後記

今月号の「支院だより」を読むと、各地の皆さんが穏やかに新しい年を迎えられた様子が伝わってきます。今年は法音寺にとって、三徳開教百十年及び顕修院日達上人第七回忌にあたり、新たな船出の年となります。法音寺の教化資料である月刊誌『法音』も、今月から新たな取り組みを始めました。

従来の『読者の声』を『のりのね体験いま・昔』と名称を変え、昔の信者さんの体験談を紹介しています。昔の信者さんとは、すなわち仏教感化救済会の時代、または大乗修養団の時代、さらに法音寺初期の頃、三先師及び日達上人から直接教化を受けられた方々です。そういう方々の体験談にふれますと、法華経が〝体験仏教〟と呼ばれる理由がわかる気がするほど、信仰のアンテナの高さとエネルギーを感じずにはいられません。ぜひ、お読みいただきたいと思います。

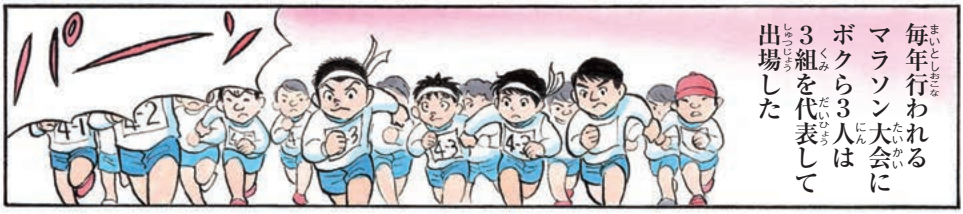
三徳開教百十年という節目に、「法音寺の源流」にふれ、信徒としての本来の使命を再確認する一助となるでしょう。

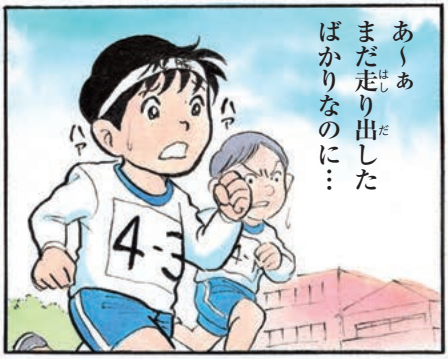
今年も希望にあふれた『新生・法音寺』をお伝えできるように、力を合わせて頑張ります。

ひまわり#62

マラソン大会

竹中 淳





一カ月前

なあ　蓮　マラソン大会出るんだろ？

マラソン？　やだよ

なんでだよ～　一緒に走ろうよ

しんどいよ！　マラソンなんて

あのなー　勉強ができないオレらがだよ　じゃあ　どこでアピールするんだよ　スポーツしかないだろ!?

別にアピールできなくていいもん

一等になったら女子にモテるゾ

おいショウ　オレ知ってるぜ　毎日放課後グラウンドを走ってるの！　あれマラソンの練習なんだろ　出ろよ！

本番もきついけど練習もきつかったなぁ
ハァハァ
まず4キロってどのくらいの距離なのか走ってみようか
このグラウンド200メートルだから 20周ね
20周〜!!
もうダメ…
3組ってたいしたことねぇな
ハァ ハァ
先生練習って毎日やるの？
もちろんよ あら？ タケルくんは？
ボク見てくるよ
何してんだ？
ちょうどいい所へ来たな
見てくれどうだこの走り方カッコいいか？
この方がいいかな？どう思う？
な なに考えてんだ？

まずは
カッコウから
入らなきゃ

おっこのハチマキ
いいだろ？
ちゃんと3人分
作ったからな

あとさ
ゴールテープを
切るポーズは
どんなのがいい？

こんなの
どうだ

もっとほかに
練習すること
あるだろ!?

これは？

もう
いいよ!!

あ…
ひょっとして

おまえ
オレがこんなこと
してて

どうやって
一等になって
カッコいい所を
アピールできるんだ？
女子にモテるんだ？
って思ってんだろ！
それができる
んだよ！ヘヘッ
教えようか？

さあ
練習始める
わよ
ほかのクラスの
子達に
負けちゃうよ

ホラ使えよ
必勝ハチマキ！

3人ともよーく頑張ったわね
明日の大会はマイペースで走りぬくのよ
なっ オレがいった通り頑張れるだろ？
ああ
ショウくん大丈夫？
ショウはついてこられないと思ったけどな 頑張ったな
あたりまえよ キミらとちがってショウくんは一日も練習を休まなかったのよねっ！
いや先生！タケルのいうとおりだよ ボク苦しくて何度もやめようかと思ったんだ
でも その苦しいのが一回 二回 三回とくりかえし来るたびもう一回だけ頑張ろうって走ったら
そしたら四回目に来た苦しさってあんまりつらくなくなってきたんだ 変だね

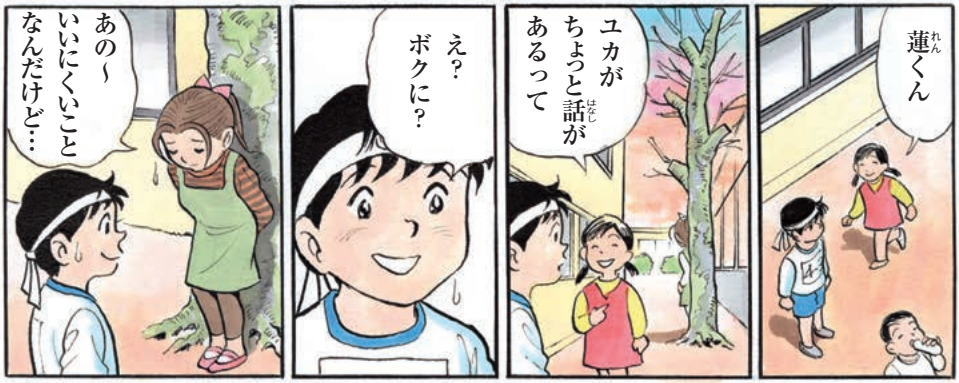
3組！ファイト
ガンバレ～！
負けるな～
あ…もう～ダメ…
ハァハァ
ハァ
ハァ
ハァ
へへッ教えようか
マラソンってつらいし苦しいじゃん
そんなのガマンして走るのってオレはイヤだね
そう考えたら4キロなんてへっちゃらだろ!?
ガマンするつらさを走りきったあとの楽しみに変えちゃえ！
だから走り終わった時の楽しいこと想像して走るんだ
カッコよく走ってカッコよくゴールテープをきってみんなに祝福されて女子からキャーキャーいわれたら　もー最高だろ？
キャー
スゴイ
キャー
キャー
キャー

おお　何だか元気がわいてきた！
ハッハッハッ
タッタッタッ
ハァハァ
4-4
4-3
4-1
4-2
タッタッタッ
タッタッタッ
ショウくん！
ハッハッ
ショウくんには負けないゾ
ボクだって！
ハァ
ハッハッ
3人のうちだれもゴールテープは切れずタケルは3位ボクとショウくんは10位　11位だった
女子からキャーキャーいわれて迎えられることもなかった
でもボクら3人は途中棄権することなく完走した
4-3
3

タケルとショウくんの笑顔にも走り切ったという達成感があふれてた

きっと二人も今まで味わったことがない自信と喜びを感じたんだろう

これからどんな苦しいことがあっても逃げ出さず頑張れる気がした



おしまい

書籍のご紹介

法音寺を知りたい方へ

戦後、法音寺を開山した鈴木修学上人は、仏教の教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を作りました。当時の仏教界では革命的な取り組みでした。現在、全国の日蓮宗寺院で法音寺の仏教漫画が販売されています。

■まんが

『法音寺物語 上・中・下』

法音寺広報委員会　企画
中央法規出版 刊
B5版　平均九六頁総カラー
定価 各巻一、〇〇〇円（税別）

法音寺の教えを学びたい方へ

現代生活の指針

鈴木 修学 著
四六判／三四五頁
定価 八〇〇円（税込）

続 現代生活の指針

鈴木 修学 著
四六判／三五二頁
定価 八〇〇円（税込）

仏教を学びたい方へ

鈴木修学先生の南無妙法蓮華経

淺井 圓道 著
山喜房佛書林 刊
四六判／二百二頁
定価 一、八一四円（税込）

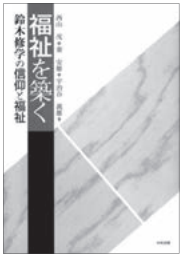
妙法蓮華経略義

鈴木 修学 著
青山書院 刊
A5版／八六三頁
定価 六、〇〇〇円（税込）

福祉を学びたい方へ

日本の福祉を築いたお坊さん

星野 貞一郎 著
中央法規出版 刊
A6版／一六八頁
定価 八六四円（税込）



福祉を築く

西山 茂／秦 安雄／宇治谷 義雄 著
中央法規出版 刊
A5版／二二三頁
定価 三、六一八円（税込）

知恩報恩

「ありがとう」と言う私から
「ありがとう」と言われる私に

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乗山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3　TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com　FAX.052-831-9801

講話日
毎月7日・17日・27日
午後1時30分

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭（あき）らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人　昭　徳　会

■児童養護施設
駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設
小原学園

■障がい者支援施設
小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム
安立荘
高浜安立荘
小原安立

■障がい福祉サービス事業
授産所高浜安立

■軽費老人ホーム（特定施設入居者生活介護事業）
ケアハウス高浜安立

■軽費老人ホーム
ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム
養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム
慈泉寮

■保育所
駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部　〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10　TEL（052）831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人　日本福祉大学

■日本福祉大学大学院
■日本福祉大学
■日本福祉大学中央福祉専門学校
■日本福祉大学付属高等学校

法人本部　〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6　TEL（0569）87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp

法音・平成30年2月号・No.580・平成30年2月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・（株）一誠社